別紙様式1

令和8年度　学校評価表

（　中間　）　　学校名　三原市立宮浦中学校　　校番（　27　）

a 学校教育目標	未来を切り拓く「生きる力」を身につけた生徒の育成 ～学び合い、高め合う宮中生～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） ◎社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） ○　この先の社会に出た時に役立つ「生きる力」を育成する学校 ○　社会に貢献できる自立した人間を育成する学校 ○　生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標 （目標のめやす）	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	育成すべき資質・能力（知識技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう人間性）を身に着け、主体的に学び合い高め合う生徒の育成	○学力調査において、本年度全学年・全教科全国平均以上 ○学び合いによる、生徒同士の高まり合い	・主体的で対話的な授業の創造に向けて、校内授業研究を実施する。（一人1授業研究） ・協働的な学びや問いの工夫を通して、授業改善を行う。 ・各種学力調査結果の分析に基づき、課題を明らかにしたうえで、短期PDCAサイクルの基づいた学力向上に取り組む。 ・生徒が学習道具として、ICT機器を、自ら選択し活用しながら学習の幅を広げる学習機会を提供する。 （教職員のICT機器活用、生徒のICT機器活用）	・学力調査（標準学力調査）の伸び	全国平均比101%以上	96%		95%	B	・全国学力調査では、３教科とも+全国平均を下回った。	・12月実施の標準学力調査に向けて、5教科だけでなく全教科・全教職員で関わり、学力向上の取組を進める。	5			・「本時の目標」を掲げて授業を進められていることは、生徒にとって学習の目標や到達点が明確になり、良い取り組みだと思います。
				・校内授業研究の実施	一人 1授業研究	31%		－	－	・計画通り実施できている（16人中５人）。研究授業・協議は同じ教科以外の教員もなるべく多く参加できるようにしている。	・授業改善に向け、全教職員で毎月、授業参観週間を設定し、授業を参観する。	4		1	・先生方が前向きに授業改善に向けて取り組まれていると感じます。 ・教科の枠を超えて、互いの授業を参観し、学び合うことは大変意義ある取り組みだと思います。
				・問いや課題に対して自分なりの考えを持ち表現している生徒の割合（アンケート）	80%以上	82%		103%	A	・全学年では目標値を達成しているが、２年生は78.6%である。	・学習のめあて提示までのストーリーを指導者が組み立て、考えたくなるような問いを設定する。 ・考えを表現する場を設定する。	5			・以前、短学活でスピーチに取り組まれていましたが、自己表現力を育む上で、大変より取り組みだと感じました。
				・生徒同士の話し合いや協働を通して自分の考えを深めている生徒の割合（アンケート）	80%以上	83%		104%	A	・全学年では目標値を達成しているが、１年生は79.6%であった。 ・協働的な学習が、単なる共同作業でなく、「分かる授業」への手立てとして機能する授業づくりが必要である。	・話し合いの目的を明確し、多様な考えから自分の考えを深めたり、再構築したりできるようにする。 ・ペア、グループ、全体など、目的に応じた方法で交流活動を行う。	5			・生徒同士の話し合いにより、自らの考えをまとめ相手に伝える力、相手の考えを聞き、他者に対する理解を深めるには、日頃からの経験の積み重ねにより育まれるものと思います。
				・自らの振り返りや他者との振り返りの共有により自分の学びを深めている生徒の割合80%以上	80%以上	84%		105%	A	・全学年では目標値を達成しているが、１年生では79.6%である。 ・授業での学びをR80で言語化し、共有する時間を確保する必要がある。	・R80はペアでの交流後、全体シェアを行うようにする。生徒のR80をもとに学びを価値づけるようにする。	5			・振り返りを他者と共有すること、非常に大切だと思います。また、それらを実践されていることに敬意を表します。
				・学びの幅を広げるためにICT機器を効果的に活用している生徒の割合（アンケート）	60%以上	86%		143%	A	・全学年で目標値を達成できた。	・個別最適な学び、他者参照などの協働的な学び、生徒の学びの見取りなど、指導者が計画的・意図的に活用できるようにする。	4		1	・リモートでの授業参加や不登校生徒の個別対応等、様々な場面での活用取り組まれていることがICTの効果的な活用の結果に表れている。 ・検索だけでなく、より効果的な活用の実例発表等、生徒自身のアウトプットの機会があっても良いと感じる。
豊かな心の育成	夢や希望を抱き、社会に貢献する気概を持った生徒の育成	○不登校生徒発生の未然防止 ○不登校等生徒への支援の推進 ○自己有用感の育成・充実した学校生活 ○自己指導能力の育成 ○郷土愛の育成	・不登校等生徒への支援に向けて、共通理解を十分行った上で適切な支援に組織的に取り組む。 ・教室に限らず、多様な学びの場、つながりの場を提供する。 ・生徒の自己有用感の育成を目指し、各種学校行事や生徒会活動等への主体的・積極的な参加を促す。 ・自己指導指導能力の育成（挨拶・時間・掃除） ・郷土愛の育成	・多様な学びの場・つながりの場の提供	個に応じた支援	100%		100%	A	・不登校生徒への定期的な家庭訪問や保護者連携を行った。 ・不登校生徒がどこかと繋がるよう、「多様な学び」の場・選択肢を用意し、自己決定できるようにした。	・支援Co.やSC,SSWが気になる生徒について、担任や学年団等と密に連携するなど、様々な視点で生徒の状況を把握し、生徒一人一人に応じた、「学び」につなげる適切な支援を組織的に行っていく。	5			・個々の生徒の状況を的確に把握し、他職種で組織的に個別性の高い対応されていると推察します。 ・中学卒業後も、自律的に成長できる人間性を育むため、引き続きよろしくお願いいたします。
				・学校に行くのを楽しいと思い生活している生徒の割合 （生徒アンケート）	90%	89%		99%	B	・１年生は92.6%と高かったが、２・３年生が87%と下回っていた。	・授業改善を進め、分かる授業、考えたい授業にしていく。 ・行事、生徒会活動など生徒主体の活動を充実させる。	5			・昨年度の１・２年生が進級後も同様に数値が低下していること傾向がみられることは気になるところです。 ・部活動やクラスでの生活から楽しさを感じる生徒もいると思います。仲間づくりの視点を考えることはできませんか。
				・あいさつ、時間、掃除について肯定的に自己評価する生徒の割合 （生徒アンケート）	90%	89%		99%	B	・時間を守ること、挨拶をすることについては、90%をこえることができたが、掃除は86.2%と90%を下回った。	・生徒会の美化委員会を中心に掃除を充実させる取り組みを行う。	4		1	・清掃活動への意識は、日頃の生活習慣も影響すると思いますが、集団生活の中で自分の役割や責任を理解することも大切だと思います。
				・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合。	60%	83%		138%	A	・83%の生徒が肯定的な回答をしており、地域や社会のために取り組もうという意欲がある。また、ボランティア活動にも積極的に参加している。	・ボランティア活動の募集を行う。 ・社会科、総合的な学習の時間を中心に地域に関する学習を進める。	4		1	・まずは自分のできることから活動に参加し、少しずつ地域とのかかわりを深めていく中で、社会貢献する喜びや、その経験が将来の自分自身の成長にもつながることを感じ取ってほしいです。
信頼される学校	生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校	○学校満足度の向上 ○学校教育活動の発信 ○郷土愛の育成 ○環境整備を推進し、美しく働きやすいづくり ○働き方改革の推進	・生徒・保護者・地域の方々から信頼され、応援される教育活動を行う。コミュニティ・スクールの推進 ・定期的、計画的な学校情報の発信に努める。 ・不祥事防止の取組を徹底し、不祥事事案の発生をゼロにする。 ・勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進と働きがいや働きやすさを感じる職場づくり	・教育活動に満足している保護者の割合 （保護者アンケート）	85%	88%		104%	A	・一定数の評価はいただいた。 ・「あてはまらない」と回答した保護者が12%おり、学校満足度の向上に努める必要がある。	・授業、学年・学級、部活動等、あらゆる教育活動を通して、集団づくりを核とした、きめ細かな対応をしていく。	5			・「あてはまらない」と回答した保護者の理由がわかると改善策が具体的になるのではないでしょうか。
				・HPや各種たより、すぐーるの内容がわかりやすいと答えた保護者の割合。 （保護者アンケート）	80%	95%		119%	A	・肯定的評価を多くいただいた。 ・各担当者が、タイムリーに情報提供することに務めた。	・今後も保護者に迅速に情報提供を行うとともに、読み手にとって、わかりやすい内容にしていきたい。	5			・保護者にとって分かりやすいものとなっていることは保護者の学校への関心も高いのではないかと推察します。
				・時間外勤務が月45時間以内の職員の割合	80%	75%		94%	B	・目標には届かなかったが、過去３年では一番達成値が高かった。 ・45h以内の職員と超過の職員が二極化している。	・週１回の定時退校日の徹底（学年主任からも呼びかける） ・主任主事を中心とした計画的な業務遂行と協働	5			・健康管理に主眼を置いた組織であってほしいと思います。
				・組織の一員として自分の強みが生かせていると感じている教職員の割合	80%	83%		104%	A	・目標は達成したものの、「強みを生かせていない」と回答した職員もおり、個々の強みを生かせる職場環境づくりが必要。	・「困った時は声を出そう！」「お互い様」を合言葉に、心理的安全性の高い職場を目指す。 ・「働きがい」「やりがい」のある職場環境を目指す。	5			・それぞれの強みを生かし、互いに支え合える職場環境が大切だと感じます。心理的安全性を高め、誰もが安心して働きがいを感じられる職場づくりを目指して引き続きお願いします。

【j: 自己評価　評価】
A: 100≦（目標達成）　B: 80≦（ほぼ達成）＜100
C: 60≦（もう少し）＜80　D: （できていない）＜60

【l:学校関係者評価　評価】
イ: 自己評価は適正である。　ロ: 自己評価は適正ではない。
ハ: 分からない。